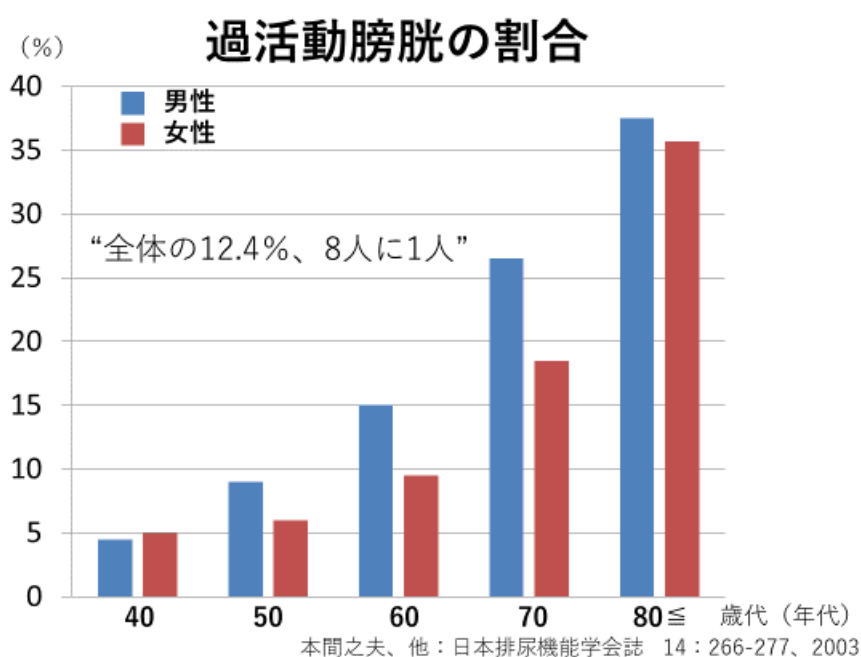


過活動膀胱に対するボトックス注入療法

過活動膀胱とは、「尿意がこらえられない、またそれに伴い尿が漏れてしまう」といった尿意切迫感、及び頻尿、尿失禁など排尿に関わる症状が現れる病気です。図1のように40歳以上の12.4%、おおよそ8人に1人に認めるといわれ、男性、女性とも年齢と共に増加することが分かっています。



図①

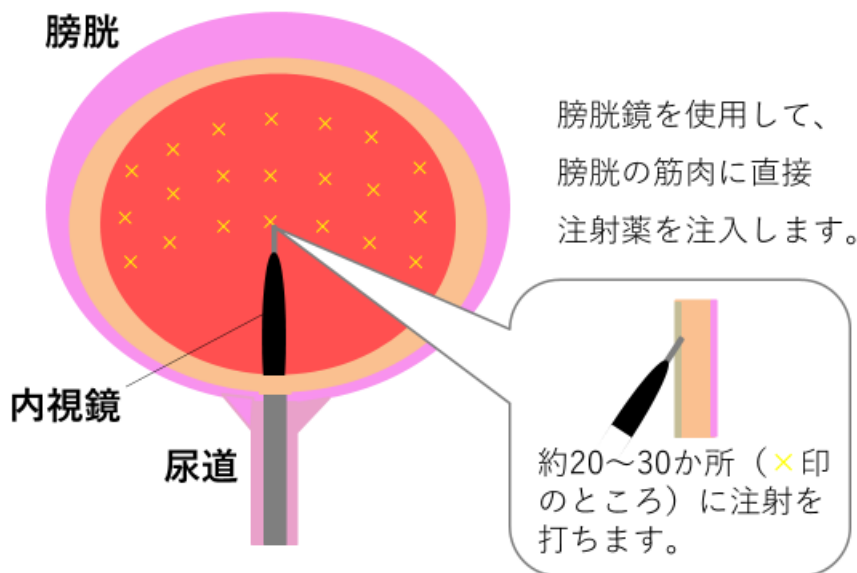
原因は脳出血や脳梗塞、パーキンソン病、脊髄損傷など脳神経の病気だけでなく、前立腺肥大症や骨盤底筋群の衰えなど加齢現象も挙げられます。

治療はまず生活指導（水分の摂り方、便秘改善、肥満解消）した上で、膀胱の筋肉が過剰に収縮するのを抑える治療として、抗コリン薬やβ3作動薬などの薬物療法を行います。しかし通常の薬物療法を行っても効果が無い、また薬剤の副作用のために治療を継続出来ない方がいます。そこで適応になるのが2020年4月に保険適応になった“ボトックス（ボツリヌス毒素）注入療法”です。

ボトックス注入療法はもともと痙縮（けいしゅく）と呼ばれる顔の筋肉のけいれんや、四肢のこわばりなどに保険適応になっており、美容形成のしわ取り（こちらは保険適応外）など医療分野で広く使用されています。過活動膀胱の症状は膀胱の筋肉が過剰な収縮を起こすことで起こります。筋肉の収縮を弱める作用があるボツリヌス毒素を尿道から内視鏡下に膀胱の筋肉に直接注射し、膀胱の過剰な収縮を抑えることで症状を改善させます。ボツリヌス菌

を注射する訳ではありませんので感染する心配はありません。これにより過活動膀胱に伴う症状の改善が期待出来ます。

ボトックス注入手技



治療は1泊2日で、入院日に治療を行い、翌日に退院を予定します。副作用として排尿困難（10%）、尿路感染症（5%）、膀胱出血（3%）を認めることがあります。

治療効果は施術後2-3日で現れ、数ヵ月持続しますが、時間が経つにつれて薬の効果が弱くなって行くため、効果がなくなってきたら再投与が必要になります。

全ての方に治療を行える訳ではありません。尿路感染症、膀胱結石、尿路悪性腫瘍のある方、残尿の多い方、基礎疾患として神経疾患、呼吸器疾患、緑内障のある方、妊娠授乳中の方などは治療を行うことは出来ません。また男性、女性問わず適応のある治療ではありますが、男性の場合前立腺肥大症による排尿障害が悪化する可能性があり、現在のところ当院では女性に対してのみ治療を行っています。希望の方は泌尿器科を受診して頂き、治療の適応を相談しましょう。

【泌尿器科診療部長 上井 崇智】

